



祖殿唐門より望む日の出



第123号



不断念佛相続十九萬日大法会まで後一年



伊賀教区 別格本山西蓮寺山主

山本 純裕

新年あけましておめでとうございます

皆様には輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます

この度、私こと仏縁和合して醫王山西蓮寺第三十六世の法灯を継承させていただくことになり、昨年秋季十一月に、皆様方のお力添えで無事晋山式を終えることができました。有難く光榮に存じ、感慨無量でございます。

これまで、西蓮寺の寺門興隆発展に多大のご尽力をいただきました武田圓龍前御山主（現西教寺管長猊下）の後を不徳浅学非才の私が、お引き受けることは、誠に身に余る思いであります。立派に整備された伽藍の数々の中で、宗祖真盛上人の御本廟をお守りさせていただける仏縁を喜び、真盛上人の遺戒であります「無欲清淨専勤念佛」の行に励む所存であります。また、檀信徒の皆様と共に寺檀和合を信条に西蓮寺の寺門興隆及び宗門発展のため、不惜身命の決意で精進して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、総本山西教寺では、不断念佛相続十九萬日大法会が厳修されるまで後一年となり、着々と諸準備が進められています。既に研修道場が立派に改修されたり、各箇所には、念願のエレベーターが設置されたりして、より多くの檀信徒の皆様が参詣できるように便利になりました。門末ご寺院におかれましても、この法会を記念して諸行事や諸事業を計画されている所も多いことでしょう。

今日、宗教離れや信仰心の希薄さが指摘されています。私たちは今改めて真盛上人のみ教えを心に刻み、欲心を捨てて心を清浄にし、不断念佛の行に励み、慈悲を以て社会貢献していきたいものです。

十九萬日大法会が、貴重な「安心」を得る機会となり、私たちが、次の世代にしっかりと繋いでいく使命を果たすためにも、この法会を皆が一九となって成功させなければならぬと思います。

今年も各ご寺院住職及び檀信徒の皆様にとりまして、現世安穩の幸多き一年になりますよう心より祈念申し上げます。

合掌



伊勢教区
津 西来寺蔵 元三大師画像

我々の母山、比叡山はその長い歴史の中、数多くの名僧、傑僧を生み出しています。その中で、弘法大師のようにご祈禱の本尊として祀られるのは、第十八代の天台座主、元三慈恵大師良源大僧正だけです。

平安中期 延暦寺は諸堂の老朽化がすすみ、修行もままならないありさまでした。良源は、そんな低迷期に天台宗の代表として他宗との論議の場に臨まれ、「応和の宗論」に於いて伝教大師以来つづく法相宗との論争に決着をつけました。そして五十五歳で座主職に就き、後に人材育成の為「廣学豎義」という制度をつくり、修行僧たちに論議をさせて学力向上をはかり、一方、「二十六条式」という律を發布して僧兵を戒め、綱紀肅正をすすめ、ついには荒廃した諸堂を往時に復せしめた中興の祖なのです。その業績の他に生涯を通じて数多くの霊験談が伝わっており、滅後千年以上経た今日も、威徳を慕う人が後を絶ちません。



元三大師護符

この稀有な個人崇拜を紐解くカギとして欠かせないのが、恵心僧都源信和尚と南光坊天海大僧正の存在です。

往生要集の著者、恵心僧都は日本の浄土教の祖と仰がれますが、僧都の師僧こそが元三大師なのです。大師が九八五年正月三日に遷化されたことから「元三大師」と俗称されることはよく知られていますが、奇しくも同じ年に往生要集が完成しているのです。

僧都の浄土思想は師から受け継がれたもののなかもしれない。そのことは大師が自ら「九品往生義」を著して居られることなどから推測できるので。本山西教寺の本堂には、ご本尊の左右にこの師弟が祀られていることをご存知ですか？ご参拝の際には是非お参りください。

天海大僧正は、家康、秀忠、家光の徳川三代にわたって帰依を受けた人物で、家康の葬儀の際、「明神」として祀ることは豊臣家同様に滅亡につながると主張し「東照大権現」という号をもつて祀ったことで有名です。この天海師が熱烈な元三大師の信奉者で、後には天海師自身が大師の生まれ変わりといわれるようになりました。

ある時、家光に子宝祈願を頼まれた天海師が、ご祈禱の本尊として白羽の矢をたてたのが中本山 西来寺の元三

大師画像でした。詳細は省きますが、四代將軍家綱誕生にまつわる重要な史実なのです。元三大師信仰がむしろ、関東で盛んなのには、こうしたいきさつがあるのです。

今日でも我々の身近にお大師様は、いらっしやいます。それが「角大師」と呼ばれる異形のお札です。

都に流行った疫病を鎮める為に、大師自ら鬼の姿に変化し、弟子に写しとらせた姿を版木におこし、刷ったお札を戸口に貼った家からは病人が出なかつたという故事以来、現在に至るまで、本山はもとより各地の天台寺院にて刷られ続けています。

この他、おみくじの元祖、観音様の化身、生身のお不動様等、霊験談にはきりがないので、ひとつに絞ってご紹介します。

ある時、お受戒の戒師を勤めておられた大師の口から発せられる言葉が、光を放ち、その場に居合わせた人々は菩薩戒經にある「戒如明日月」（説かれた戒は、日月のごとく明るく周りを照らす）との一節を体現されたのだと確信したそうです。持戒堅固なお大師さまだからこそこの伝説です。

天皇家ゆかりの「法勝寺流円戒」を受け継ぐ戒律道場としての戒光山西教寺をご本山に戴く我々真盛宗徒にとつて、なんとも心強いエピソードといえるのではないのでしょうか

私見ではありますが、我々の理想とする戒称二門の教えもさかのばれば元三大師信仰に起因するといっても過言ではないと考えます。



今回は真盛宗だけで声明と雅楽の両輪が演奏できる。順次往生講式と言う壮大な講式法要についてお話をさせて頂きます。

まず我宗、人間宗宝の故片岡義道先生が、数百年の時を経た今資料は有っても現存していない宴曲や講式を研究されて復元、復曲されております。

その中に、平安時代に盛んに講式と言う形態の催事が行われ、その内容は多種多様で声明や催馬楽、等が雅楽の演奏を伴って奏され、また宮廷などで雅人が楽しんでた古文書に記されています。

音楽、歴史的な視点から学者の方々が研究されている順次往生講式と言う講式の経文が京都の浄土宗総本山知恩院に残されております。

この順次往生講式は叡山の僧真源によって作られました。この講式は順次に極楽唱歌（仏の世界を賛嘆する）と言われる声明に雅楽の伴奏が付き、唄われその構成は本文（式門）、音楽（雅楽曲を伴奏に付けた声明）、催馬楽（神楽歌が原点で中世歌謡として流行っていた）を一組として十二組で成る壮大な講式です。

この順次往生講式を故片岡先生は極楽唱歌の声明部分、全てを復曲しその一部を雅楽の大家元宮内庁式楽部、芝祐靖先生の協力を仰ぎ平成五年に国立劇場小劇場で発表します。

（この時は東京の叡山の僧侶と芝先生の雅楽団体が演奏し片岡先生のみが参加する形態）

真盛宗としての初発表は天王寺楽所の清水修先生の協力を仰ぎ平成七年大津伝統芸能会館で極楽唱歌を声明と雅楽の両方を演奏する公演を行いました。

この公演（順次往生講式）は片岡先生ご生存の平成十二年の国立能楽堂まで数回にわたって続き、片岡先生没後は平成二十二年の法然上人八百回忌慶讃法要での演奏へと現在も続いています。

次回では二〇二一年の不断念仏相續十九萬日で演奏する慈観大師御影供についてご説明いたします。

（文責…多治見真篤）

明智光秀公と西教寺

(越前滞在を縁として)

天台眞盛宗 社会部部长 蜂谷眞勝

この一月から、いよいよ明智光秀を主人公とするNHK大河ドラマが始まります。明智一族の菩提寺である西教寺も、一躍注目を浴びることとなり、昨年ドラマ化が発表されてから本山を訪れる観光客が大幅に増加し、喜んでいるところでもあります。

このような状況の中、一般の方からどうして西教寺が菩提寺になったのかという質問をよく受けますが、私なりに推測すると、光秀が坂本城主になったからだけではなく、信長の家臣になる前、約十年程度越前に滞在していた時期があり、その間に得た知識が一つの縁となったのではないかと思います。光秀の一生を大きく区分すると、正確ではありませんが、通説に従えば、斉藤道三に仕えた美濃時代（二十八歳ごろまで）、朝倉義景に仕えた越前時代（三十八歳ごろまで）、織田信長に仕えた近江時代（五十五歳まで）と分けることが出来ます。

道三が滅ぶと共に越前に逃れてきた光秀は、現在の坂井市丸岡町長崎の称念寺（時宗）の門前に、寺子屋を開きながら身を寄せていたことが、近年発見された時宗宗内資料「遊行三十一祖

京畿御修行記」によって裏付けされました。

その後朝倉家に仕官したとされるのですが、このことも近年熊本で発見された「針葉方」という医学書、これは光秀の口伝を足利義昭に仕えた米田貞能が書写したもので、その本文中に「セキソ散越州朝倉家之薬」とあり、朝倉家に伝わっていた独自の薬を光秀が知っていたことを示唆するもので、朝倉家に仕えていたことの根拠の一つとして注目されています。

また一乗谷の隣、現在の福井市東大味町に「明智神社」という小さな祠が残っており、地区の説明によると、朝倉家に仕えた時代はここに屋敷を構え、ここから埤を越して一乗谷に通い、朝倉家に仕えていたとのことである。

一方この時期に、一乗谷においては京から朝倉家を頼って逃れてきていた来ていた足利義昭が「御所」と呼ばれる屋敷に滞在していた。この御所の隣には「安養寺」と称した浄土宗の寺院があり、ここは、眞盛上人が越前引接寺滞在の折、朝倉家（三代目貞景）に請じられ、一族に戒称二門の法門を説くとともに円頓戒を授けた寺院である。宗祖の時代と光秀の時代とは時間的に約百年位のずれはあるが、細川藤孝と共に義昭を正式な將軍にしようとしていた光秀は、御所に頻繁に出入りし、貞景時代の朝倉家と眞盛上人との特別な関係を当然耳にしていたと思

われ、この時から眞盛上人、またその教義について多少なり知識は得ていたのではないかと想像する。

さらに信長時代に、越前を支配した柴田勝家が東大味町に存在する眞盛上人開基とされる西蓮寺（現在は天台宗）に対し、安堵状を出しているのは、昔世話になった東大味地区の恩に報いるため、光秀が同僚である勝家に頼んでくれたからだとの地元の説明を聞き、この点からも光秀が西蓮寺を通じて眞盛上人を認識していたと思われる接点が見い出せる。

このような背景を考えると、後年偶然にも坂本に領地を得ることになった光秀にとつては、領内に存在する西教寺また眞盛上人に対して、越前滞在の縁から特別の思いが有っても不思議ではないと考える。

歴史的事実として、光秀と西教寺の間わりが明確に確認できる最初の出来事としては、皮肉にも元龜二年（一五七二）叡

山焼き討ちの時の西教寺の焼失である。叡山焼き討ちに信長の命令とは言え直接関わっていたと考えられる光秀が、焼き討ち



安養寺・御所跡



西蓮寺

翌年（一五七二）西教寺庫裡再建、三年後の天正二年（一五七四）には仮本堂復興にと大きく寄与してくれたのである。延暦寺の復興は信長の死後以降になるが、西教寺がいち早く復興に着手することができたのは、信長に対する光秀の尽力があり、また延暦寺と西教寺では寺も持つ性格、勢力等が大きく違っていたことが幸いしたのかもしれない。

以後光秀は元龜四年（一五七三）の供養米寄進や、天正四年（一五七六）妻熙子の西教寺での葬儀等次第に関係を深めていき、総門、梵鐘等の寄進など菩提寺に対し絆が出来上がっていったのであろう。

今般西教寺では、ドラマ化を機に「明智光秀公資料室」を開設し、遺物を中心に展示しているので、是非一度御登山頂き光秀と西教寺の関係について思いを馳せて頂きたいと思います。

研修道場リニューアル オープンのご案内

令和三年十一月の不断念仏相続十九萬日大法会厳修に向けて今年七月七日にリニューアルとバリアフリー化が完了、オープンいたしました。今までは、本坊から研修道場を通り食堂までの間が、複数の階段を上り下りしていただかないと利用ができず、事故等が起きやすい状態でありました。その為、本坊と研修道場の間に一基、研修道場と食堂の間に一基合計二基のエレベーターを設置しバリアフリー化にいたしました。また、各部屋の内装、廊下、お手洗い、浴室等の改修工事を行いました。今後、よりよい宿泊、研修をしていただけるように改装することができましたので、各ご寺院住職、檀信徒の皆様にご写経や座禅、各種研修など様々なご利用のご予約をいただきますようお願い申し上げます。



201、202号室



本坊エレベーター

大根煮

一月十五日より二月十四日の約一ヶ月間、食堂にて西教寺秘伝大根煮をご賞味いただくことができます。

大根は、食中毒にかからないということから古来より年の始めに大根煮を食べるとその一年は病気になるまいと言われたことから、無病息災を祈り食されたと言われております。

ぜひ、年の始めに一年の家運隆昌、家内安全、無病息災を総本山のご本尊様にお参りされ秘伝大根煮をご賞味いただくことをおすすめいたします。

大根煮定食 一、三〇〇円（税別）
大根煮 八〇〇円（税別）



ひな御膳・ひな人形展

二月十五日より三月三日まで、食堂に於きまして、ひな御膳をご賞味いただいております。

このひな御膳は子供の成長を祈り食していただくお料理でございます。

まず、本堂で息災・健康をお祈りお参りされたあと、表書院で江戸時代から現代までの美術的価値のある人形展をご鑑賞いただき、一日ご家族皆様で過ごしいただきますようご案内申し上げます。

ひな御膳 二、〇〇〇円（税別）
ひな人形展 四〇〇円（税別）



団体参拝 ありがとうございました

平素は、多数、檀信徒様の総本山への御登山、御参拝を賜り誠にありがとうございました。

今後共、各末寺の御住職、檀信徒様によりよいご参拝がいただけますよう拝観案内等の充実につとめてまいりますので、たくさんの方の御参拝をお待ちしております。

六月

伊勢教区川崎組常念寺・盛福寺様団体参拝 三十五名

十一月

伊賀教区西部組西念寺様 九十四名



発行所

天台真盛宗教学部

大津市坂本五丁目十三一

総本山西教寺内

電話 大津 (〇七七) 五七八〇〇一三番代

印刷所

宮川印刷株式会社

大津市富士見台三十八

電話 (〇七七) 五三三二二四一番